

# 宮城山岳通信第13号

## 目次

巻頭言	富塚和衛・・・1～2頁
定例役員会報告	事務局・・・2～3頁
宮城支部山行報告	
☆（訂正再掲）厳冬期山行（南面白山）（共益事業山行）	今野俊一・・・3～4頁
☆移動総会兼春山山行（太白山）（共益事業山行）	富塚和衛・・・4～5頁
☆第7回登山教室（北面白山）（公益事業山行）	佐藤昭次郎・・・5頁
☆岩手・宮城内陸地震10周年メモリアル三支部合同山行（共益事業山行）	遠藤銀朗・・・5～6頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
平成30年度支部総会開催報告	事務局・・・7頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
なし	
平成30年7月～平成30年10月の行事予定	事務局・・・7頁
編集後記	遠藤銀朗・・・8頁

## 巻頭言（故郷の山）

支部長 富塚和衛

生まれ育った故郷を離れて暮らす者にとって、幼い頃に仰ぎ見た山や駆け巡った野山は、懐かしい「ふるさと」の原風景として記憶が蘇る人も多いのではないだろうか。小生もその一人なのだ。

故郷のウサギ追いし彼の山は、今は、宅地や田畑に変わってしまい昔の面影はない。だが、仰ぎ見た栗駒山(1,626m)は、今も遠目には幼い頃の姿と全く変わらず、田植え時期になれば山名の由来ともなった「駒」の雪形をクッキリと見せてくれる。

浜民村の住職の子として生まれ、南部富士と称せられる岩手山(2,038m)を眺めつつ育った石川啄木は、詩集「一握の砂」に『ふるさとの山に向かいて言うことなし。ふるさとの山はありがたきかな』と認め、『今でも思い出される忘れることのできない故郷』と望郷の念を書き綴っている。また、津軽の金木町で産声を上げた太宰治は小説「津軽」で、『津軽平野・・・から眺めた岩木山(1,625m)の端正で華奢な姿が忘れられない。』と故郷の山を慕った文章を残している。

二人の文豪の後に記述するのは烏滸がましい限りではあるが、ここはお許し戴くとして、小生にとっての故郷の山と言えば栗駒山。この山は、2008.6.14日、8時43分マグニチュード7.2

の大地震に見舞われ、死者行方不明 23 名の犠牲者を出した。大地震から、今年で 10 年の月日が流れた。犠牲者の殆どは「栗駒山」に憧れを抱いていた人々であったに違いない。その思いもあり、栗駒山に県境を持つ秋田、岩手、宮城の 3 支部共催で、犠牲者の慰霊の意も込めた合同山行を企画・実施した。参加して頂いた方々には感謝申しあげたい。

大地震で、南斜面は崩落し大きなダメージを受けた。約 80 万年前に火山活動が始まったと言われる栗駒山は、この大地震の傷も、悠久の時の流れが癒し、何事もなかったかのように佇み続けるのだろう。火山噴火やまたの地震がない限り。

最後に、日本山岳会の大先達であり、仙台市の名誉市民でもある榎有恒は、70 歳を過ぎて発行した著書「わたしの山旅（岩波新書）」の中で、「仙台での山歩きの思い出に残る 1 つは泉ヶ岳登山であった。」と、故郷の忘れえぬ山として泉ヶ岳を記している。

## 定例役員会議事録

### ☆平成 30 年 5 月定例役員会議事録

日時：5 月 16 日(水) 18:30～20:30  
場所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：富塚（和）支部長、遠藤副支部長  
佐藤（昭）、草野、柴崎、三宅、松田、千石、鈴木、木皿  
計 10 名

#### 《報告事項》

- (1) 平成 30 年度総会の結果について
- (2) 役員の変更について
- (3) 総務・財務委員会からの報告
  - ①山岳関係機関からの受理状況  
・第 34 回東北・北海道地区集会参加者募集について
- (2) 山行集会委員会からの報告
  - ①春山山行結果
  - ②第 6 回登山教室（北面白山）実施計画
  - ③岩手・宮城内陸地震 10 周年メモリアル 3 支部合同登山実施計画
  - ④第 6 回親子登山教（戸神山）室実施計画
  - ⑤夏山山行（立山）実施計画
- (3) 会報編集出版委員会からの報告
  - ①宮城山岳第 22 号編集進捗状況

#### 《審議事項》

- ①「山の日」記念事業について

- ・夏山山行を記念事業として実施すること  
と  
で合意。
- ②各種委員の変更について  
・事務局（案）を了承
- ③平成 30 年度役員連絡網について  
・事務局（案）を了承
- ④会員、支部友会会員の入会、退会について  
・何れも承認される。

#### 《その他》

- ①第 34 回全国支部懇談会参加申し込み状況
- ②宮城県知事への 2021 年「山の日」記念事業立候補働きかけ結果  
・理解を示すも、同年度に「海の日記念事業」を宮城県が担当する計画があり、当分難しい旨の回答有。
- ③創立 60 周年記念中華民国玉山登山参加者の確定  
(事務局報告)

### ☆平成 30 年 6 月定例役員会議事録

日時：6 月 14 日(水) 18:30～20:30  
場所：仙台市シルバーセンター 5F 会議室  
出席者：富塚（和）支部長、遠藤副支部長

佐藤（昭）、松田、千葉

計 5 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

- ① 仙台市教育委員会後援承認
  - ② 山岳関係機関からの受理状況
    - ・ 登山計画書の提出に関して
    - ・ 年次晩餐会 & 展示出展について
- 仮称「中華民国山岳協会との 60 年の歩み」として展示出展することに

(2) 山行集会委員会からの報告

- ① 第 6 回登山教室実施結果
- ② 岩手・宮城内陸地震 10 周年メモリアル 3 支部合同登山参加申し込み状況

(3) 会報編集出版委員会からの報告

- ① 「宮城山岳」第 22 号の発行
- ② 「宮城山岳通信」第 13 号の発行計画

(4) ビールパーティーの開催

- ・ 例年通り実施

・ 指導・遭難対策、山行集会、会報出版委員会の各委員長に限り情報提供することについて承認。

(2) 「宮城山岳」支部創立 60 周年記念誌（第 23 号）の発行費用調達について

・ 支部友会員への配布を前提に支部友会会計からも充当すると共に、寄付についても検討することで承認された。

(3) 支部創立 60 周年記念祝賀会 & 記念登山の実施方法について

・ 担当を決め役割分担すること、案内先は、本部、東北北海道支部とすることについて承認。

(3) 日本山岳会宮城支部登山計画書に関する運用指針について

・ 高橋二義委員を委員長に選任、委員を 1 名追加することについて承認。

(事務局報告)

《審議事項》

(1) 会員名簿の取り扱いについて

## 宮城支部山行報告

### ☆ (訂正版再掲) 厳冬期山行

(計 5 名)

#### (南面白山)

#### (共益事業山行)

- ・ 実施日：平成 30 年 2 月 11 日(日)
- ・ 山 域：南面白山(仙台市青葉区)
- ・ コース：JR 面白山高原駅→旧面白山スキー場上部→南面白山(1225m)→旧面白山スキー場上部→JR 面白山高原駅
- ・ 参加者：  
(会員) 今野俊一、中條俊一、松田照夫、草野洋一、宇都宮昭義

・ 報告者：今野俊一

2 月 11 日(日) 面白山高原駅で降りたのは、私たち 5 名だけでした。

7:20 駅前も雪が多く、藤花山荘前よりワカンを付けて出発。みぞれが降る中、元スキー場を登って行く。トレースが残っていて、雪も締まっており、歩きやすい。順調に高度を稼ぐ。

10:00 スキー場より夏道の樹林帯へ入る。この辺りから、風、雪とも強くなる。ここで宇都宮会員はツェルトでの休憩を行うということで、4 名で頂上へ向かう。

ここからはラッセルとなるが、先行者がいる模様でワカンのトレースが所々残って

いる。頂上近くの夏道ではない急斜面で先行者に追いつく。仙台からの単独の若者でした。ここらは、深い新雪で、吹雪にもなり、急斜面を喘ぎながら中條会員トップで進む。今年は雪が多く、途中、頂上の稜線は雪庇が出ていました。

11:50 頂上、到着。周りは、相変わらず真白。視界、3m程度。記念写真を撮り、早々に下山となる。帰りは新雪の急斜面で楽に下る。途中、宇都宮会員と合流し、立ったまま昼食を済ませて、駅まで下る。

13:50 面白山高原駅、到着。待合室にて休憩し、15:22 発の電車で仙台へ帰る。

今回の山行は、元スキー場部はトレースが有り楽に登れましたが、樹林の中は深いラッセルに苦勞させられました。みんなの気力と体力のおかげで、頂上まで行く事ができ、運動不足の体にはかなり効きましたが、満足の山でした。

## ☆移動総会兼春山山行

- ・実施日：4月28日（土）
- ・山 域：太白山（320,7m）
- ・コース：自然観察の森駐車場→生出森八幡神社→（境内で移動総会）→太白山山頂→自然観察の森駐車場
- ・参加者：（会員）草野洋一、鳥田笑美、遠藤銀朗、太田正、冨塚眞味子、冨塚和衛、佐藤昭次郎、横山哲、木皿謙、三宅泰、千石信夫、永浜洋光、（準会員）新井田祐治、（支部友会員）植松恵美、津久井宏

（計15名）

- ・報 告：冨塚和衛

今年の春山山行は2年毎の移動総会を兼ねて行われた。場所は仙台市の区名にもなっている太白山。鐘楼を伏せたような独特の山容をしたこの山は、数百万年前に出来た火山と言うから驚きだ。マグマの通り道に詰まった溶岩が浸食に堪え

て残った火山岩頸だと言う。一部は「太白山自然観察の森」として仙台市が管理している。身近な自然の中で市民が積極的に生きものたちとふれあえる場として平成3年に設置された。山歩きを始めようとする人にとっては打って付けの場だ。

10時に「自然観察の森」駐車場集合予定も渋滞のため20分ほど遅れて山行を開始する。「自然観察の森」には雑木林の中を縫うように幾つかの遊歩道が整備されている。その一つ「安らぎの道」を標識に従って緩やかに登って行く。太白団地からの登山道を合わせ「自然観察の森」上部を進むと標識があり遊歩道から登山道に出る。此処が「自然観察の森」の境界のようだ。この辺りからは、植林された針葉樹(杉)が周囲を覆う。平坦な道に出て進むと程なくして生出森八幡神社の参道に至るが、ここはズルして途中から踏み跡を直登すると、東日本大震災の爪痕が未だ残る生出森八幡神社境内に辿り着く。駐車場からは1時間程度の道程だ。この神社は、1,189年（文治5年）、源頼朝がこの地の支配を固めるために建立した神社だそうだ。

境内の東屋と神楽堂の軒下を借りて移動総会を開催する。前回の移動総会は鎌倉山（通称：ゴリラ山）で行われたが、今年の総会は建屋内での総会。雨が降っても大丈夫だ。総会出席者は支部会員・準会員13名、委任状提出者19名の31名で、支部会員・準会員総数44名の二分の一以上の出席となっており、総会は成立している事が報告された後、平成30年度の事業計画、予算等が審議承認され、総会は滞りなく30分ほどで終了となった。

総会終了後、太白山山頂へと向かう。山頂への道は、生出森八幡神社を左に見て、山腹の東側から岩場の急傾斜へと続く。山頂から北東方向に伸びる尾根に出ると傾斜が緩み、すぐに山頂に至る。神社境内からは距離は短いが山頂までは鎖場ありロープ場ありで結構ハードだ。急坂を抜け尾根筋に出ると鳥居がある。下

の神社境内から 20 分ほどで貴船神社の祠がある山頂に辿り着く。岩の上に腰を降り、雪がまだ残る奥羽山脈の山々を眺めつつ昼食を摂る。山頂では留学生のグループが記念撮影中だ。東北大の留学生のようだ。30 分ほど山頂で過ごし、登って来た遊歩道とは別の道（出会いの道）を引き返し、駐車場に戻り解散と相成った。

夕方からは、市内の居酒屋に有志が集い、今年の抱負などを語らいながら、総会の日を締めくくった。

## ☆第 7 回登山教室（北面白山）

### （公益事業山行）

- ・実施日：5 月 20 日（日）
- ・山域：北面白山（1264.3m）山形県天童市からの入下山
- ・コース 集合場所→（移動）→天童市→天童高原登山口→三沢山→北面白山山頂→（登路下山）→天童高原にて解散

・参加者：

（公募参加者）相沢まき子、後藤達雄、後藤裕恵、遠藤恵理子、中井康史、横山義三、横野考貴、水鳥京子

（会員）富塚和衛、富塚真味子、草野洋一、佐藤昭次郎、遠藤銀朗、三宅泰、千葉正道

（支部友）村上敏郎、多田孝徳、佐藤富士子、土海隆義、白田昭一

（計 20 名）

・報告者： 佐藤昭次郎

午前 7 時に参加予定者が集合場所に、急遽不参加の 1 名が居りましたが、隣県からの入山となるため車 5 台に分乗し、国道 48 号線を山形に向け出発。天気は 5 月の晴天申し分なし。天童高原への入り口を左折した際後続の 1 台がない。携帯で連絡し別ルートで左折と判明 10 分

ほどのロスではありましたが、全員登山口となるスキー場へ、ここから見る月山や朝日連峰の景色は絵になる。今日は特に空気が澄んで足元の草原の緑と、市街地を挟んで遠くの山並の残雪の白、そして青空！ 春山が好まれる所以である。

歩き出す前に支部長からの挨拶と、真味子会員の指導で軽くストレッチをして、私から本日の予定を話し、スタート前の元気な全員を写真に収め 8 時 45 分入山。途中、朝一に出かけて下山中の山形大学の学生さんらのパーティーと交差し 10 時 15 分三沢山（1042m）着。

ここで余裕の大休憩、見渡す限りの遠望に会話が弾む。そこへ千葉会員が予想外の参加、所用が済んで急遽参加したと言う。

今回は登山教室、グットタイミングだ！ 千葉先生に登山時の必要補水量の講義をして頂き真に現場教室となりました。

指導通り補水し大分近くなった山頂を目指す、途中コブシやムラサキヤシオが咲く春山をゆっくりと急登をつめる。11 時 15 分山頂に。風もなく視界良好！ すでに先客 10 名程。先ずは又とないほどの遠望を堪能。北は栗駒から南は会津の山塊まで見通せる。

昼食に充分時間を摂り 12 時過ぎに下山となる、入山した高原のキャンプ場で反省会と遠藤副支部長の締めで帰路国道が込み合うので、ここで解散することを確認し合い、楽しく第 7 回登山教室（兼春山山行）を終えました。

## ☆岩手・宮城内陸地震 10 周年

### メモリアル三支部合同山行兼露払い

### 山行

### （公益事業山行）

- ・実施日：6月17日（日）
- ・山 域：栗駒山（宮城・岩手・秋田県境）（1,627m）
- ・コース：（往路）イワカガミ平登山口→東栗駒コース→山頂→中央コース→イワカガミ平登山口
- ・参加者：（会員）富塚和衛、富塚眞味子、横山 哲、草野洋一、遠藤銀朗、佐藤昭次郎、横山哲、千葉正道、加藤知宏、松田照夫  
（準会員）新井田祐治  
（支部友会員）岩淵利秋、白田昭一、針生紀子  
（一般）佐々木義郎（栗原市議員）  
（計14名）  
（宮城支部・岩手支部・秋田支部合計31名）  
（岩手支部会員8名、秋田支部会員9名）
- ・報 告：遠藤銀朗

2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震では、栗駒山登山者を中心として死者13名、行方不明者10名の犠牲者を出した。その地震発生から10年となる2018年6月に、この尊い犠牲者の御霊を弔い、併せてこれからの栗駒山の登山の安全を祈願することを目的として、栗駒山を県境に持つ秋田・岩手・宮城の日本山岳会各支部が合同でメモリアル登山を行った。

梅雨の時期ではあったが、時折青空が覗く好コンディションでの山行となった。この合同登山の参加者は3支部合計で31名であった。宮城支部は、イワカガミ平駐車場に集合後、9:40にイワカガミ平登山口を出発して、東栗駒コースを辿り、東栗駒山、東栗駒分岐を経て、ほぼ予定通りの11:50に山頂に到着した。

宮城支部参加会員のうちの1名は、9:00に岩手支部パーティーとともに須川高原温泉登山口から出発し、須川コー

スを辿り11:30に山頂に到着し、またもう一人の宮城支部参加会員は、秋田支部パーティーとともに登山すべく、天満尾根コースを辿り同じく11:30に山頂に到着した。したがって、11:50には3支部参加者全員が山頂に集合した。

12:00より被災者合同慰霊式を行った。慰霊式では、3支部長よりそれぞれ挨拶がなされ、またこの岩手・宮城内陸地震10周年メモリアル合同山行開催の趣旨の説明がなされた。その後、岩手・宮城内陸地震犠牲者に対する黙禱により追悼した。その後、オブザーバー参加をお願いした佐々木義郎氏（栗原市議員）より、地震による栗駒山一帯の被害と山容の変化、そして被災からの復興の経緯と復興の現状についてお話をいただいた。

昼食・懇談ののちに、今後も3支部の交流と連携を深めることを約束し、13:00にそれぞれのルートで下山することとした。宮城支部は、中央コースを下って14:00にイワカガミ平登山口に下山した。

この合同山行により、地震被災のような天災の怖さの再認識と、同時に被災を乗り越えて再び可能になった登山の魅力を再認識することができた。また、普段は支部単位で独自に行なっている山行を合同で行うことによって、支部間の絆を固くすることができた。今回の合同メモリアル山行は、各支部のメンバーが直接顔を会わせることによって、それぞれの支部の山の良さをお互いに伝え合い、紹介しあい、そして招待しあう大変よい機会になったと思われる。

## 山行以外の宮城支部行事開催報告

### ☆平成 30 年度支部総会

- ・実施日：4月28日（土）
- ・場 所：太白山・生出森八幡神社境内
- ・出席者：（会員）草野洋一、鳥田笑美、遠藤銀朗、太田正、冨塚真味子、冨塚和衛、佐藤昭次郎、横山哲、木皿謙、三宅泰、千石信夫、永浜洋光、（準会員）新井田祐治、

・委任状出席者：19名

平成 30 年度宮城支部総会において、平成 29 年度の事業報告、同収支決算報告および平成 30 年度の事業計画、同収支予算、同役員人事等が審議され、いずれも異議なく承認された。

## 宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

今号では宮城支部以外の日本山岳会関係行事等への参加報告はありません。

## 日本山岳会宮城支部の平成 30 年 7 月～平成 30 年 10 月の行事予定

### ◎平成 30 年 7 月

☆7 月上旬

「宮城山岳通信」第 13 号発行

☆7 月 8 日（日）

第 6 回親子登山教室（戸神山）

☆7 月 11 日（水）

定例役員会（仙台シルバーセンター）

☆7 月 21 日（土）～22（日）

第 34 回日本山岳会全国支部懇談会参加（大雪山）

☆7 月 29 日（日）

ビールパーティー（JAL シティー仙台）

### ◎平成 30 年 8 月

☆8 月 3 日（金）～5（日）

夏山山行兼山の日記念登山（立山連峰）

☆8 月 26 日（日）

沢登り山行（山域未定）

### ◎平成 30 年 9 月

☆9 月 15 日（土）～16（日）

第 34 回東北・北海道地区集会参加

☆9 月 19 日（水）

定例役員会（仙台シルバーセンター）

☆9 月 30 日（日）

第 7 回親子登山教室（タッコ森）

### ◎平成 30 年 10 月

☆10 月上旬

「宮城山岳通信」第 14 号発行

☆10 月 9 日（火）～15（月）

支部創立 60 周年記念登山（台湾・玉山）

☆10 月 24 日（水）

定例役員会（仙台シルバーセンター）

（事務局）

## 編集後記

平成 30 年度発行として 2 号目となる「宮城山岳通信 第 13 号」を宮城支部関係者の皆様にお届けいたします。この宮城山岳通信はできるだけ 3 ヶ月に 1 回定期的に発行して、最近の支部活動の状況とこれからの支部行事開催の予定をタイムリーにお知らせしたいと思っております。また、日本山岳会本部および他支部にも「宮城山岳通信」をお送りしておりますので、全国的にも宮城支部の活動を知っていただく広報誌としての役目も果たしたいと思っております。

会報編集・出版委員会では、宮城山岳通信の他に、平成 26 年度以降休刊となっておりました支部会誌の「宮城山岳」をこの 6 月に発行することができました。この発行に際しては、多くの会員および会友の皆様のご協力とご支援をいただきました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

春から夏そして秋にかけて、山行を含め宮城支部では一年中で一番に行事の多い時期になります。今年は宮城支部創立 60 周年の記念の年でありますので、特別な行事もいくつか予定されております。この「宮城山岳通信」によって、それら支部行事開催についてよくお知りいただき、多くの皆さんがそれらの行事に参加する機会を見つけてくだされば嬉しく思います。

引き続き宮城支部の会報出版につきまして皆さんの大きなご支援を宜しくお願ひ、編集後記といたします。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

### 宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2018 年 7 月 12 日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中 9-12 Tel・Fax 022-255-7398